

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

医療薬学科
薬物治療学研究室
佐藤 淳也

作成日 2023年6月8日

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 医療薬学科
名 前 佐藤淳也
作成日 2023年6月8日

1. 教育の責任

現在までに担当した科目および教育活動(科目名、必修・選択、学年等)を以下に示す。

- 2023年3月:健康食品 e-learning 講座 (神戸薬科大学・卒後教育)
- 2021年4月:がん化学療法および緩和医療において知っておきたい Supportive Care の実践 (国際医療福祉大学・大学院)
- 2020年11月:基礎薬学総合特論(博士課程)・生命薬科学総合演習Ⅰ(修士課程) (国際医療福祉大学・大学院博士後期)
- 2022年10月:麻薬(特徴、副作用、使用方法、管理等) (国際医療福祉大学病院 研修医クルズス)
- 2021年6月:総合薬学演習Ⅰ・Ⅱ (国際医療福祉大学 薬学部6年生)
- 2021年4月:修士課程(博士課程)のための研究法入門 (国際医療福祉大学・博士前期)
- 2020年9月:早期体験実習 (国際医療福祉大学 薬学部・1年生)
- 2020年8月:コミュニケーションに関する学修 (国際医療福祉大学 薬学部・4年生)
- 2020年7月:関連職種連携実習 (国際医療福祉大学 薬学部・6年生)
- 2019年11月:臨床薬学Ⅲ (国際医療福祉大学薬学部・4年生)
- 2015年4月:早期体験実習(不自由体験) (岩手医科大学・1年生)
- 2015年4月:実践副作用特論(アレルギー、過敏症) (岩手医科大学薬学部・6年生)
- 2015年4月:3学部(医歯薬)合同セミナー(合宿演習) (岩手医科大学・5年生)
- 2015年4月:実践チーム医療論(チーム医療実習・演習) (岩手医科大学薬学部・6年生)
- 2014年4月:治療戦略概論(がん化学療法の副作用対策) (岩手医科大学薬学部・6年生)
- 2013年4月:実務基礎実習(注射剤の取扱、薬局での一般薬販売) (岩手医科大学薬学部・4年生)
- 2013年4月:臨床薬剤学(薬剤管理指導業務) (岩手医科大学薬学部・4年生)
- 2013年4月:臨床薬剤学(TDM業務) (岩手医科大学薬学部・4年生)
- 2013年4月:臨床薬剤学(医薬品管理の臨床薬剤学) (岩手医科大学薬学部・4年生)
- 2013年4月:臨床薬剤学(院内製剤の臨床業務) (岩手医科大学薬学部・4年生)
- 2013年4月:臨床薬剤学(緩和医療におけるチーム医療) (岩手医科大学薬学部・4年生)
- 2013年4月:臨床薬剤学(がん化学療法におけるチーム医療)(岩手医科大学薬学部・4年生)

- 2012 年 4 月:抗がん剤の皮膚障害対策 (岩手医科大学附属病院高度看護研修センター
(看護師特定能力養成調査試行事業実施過程 皮膚・排泄ケア分野))
- 2012 年 4 月:抗がん剤の臨床薬理 (岩手医科大学附属病院高度看護研修センター(緩和
ケア分野))
- 2012 年 4 月:抗がん剤の被爆対策と取扱(実習) (青森県立保健大学 がん看護認定看護
師養成コース)
- 2010 年 4 月:抗がん剤の副作用対策 (青森県立保健大学 がん看護認定看護師養成コース)

私の教育責務は、自らの専門領域とする臨床薬学、そのうちがん医療に関わる多職種チーム医療や薬物療法について、広く教育することである。

私の理念・目的

1) 私の理念

私、大学病院、がんセンターという特定機能病院において、高度な先進医療に従事してきました。特に、平成 17 年以降では、がん専門薬剤師制度、後に指導薬剤師制度、緩和薬物療法認定薬剤師制度が発足し、これらの認定を取得し、がん医療の臨床業務および臨床研究、学会活動に注力しております。このような私が、21 年の臨床経験、特にここ 10 年のがん医療での経験を通じて感じるのは、薬剤師に求められる職能が非常に大きくなっているということです。当初は、患者とのコミュニケーション力(接遇)と薬の説明(服薬指導)ができればよいという時代であったように思いますが、現在ではこういったスキル以外に、病状を判断して薬物療法の適否、変更を医師に提案するような高度な医療技術が求められております。このような技術は、単に知識の修得で獲得されるものではなく、①恒常的に新しい医療知識を得る姿勢、②文献検索等の医療情報を踏まえた科学的な推測力、③チームで意見を交わし合意形成に至る交渉力、④患者や家族の苦痛や状態を想像できる共感力、想像力、⑤これらを踏まえて行動を起こす医療者としての熱意が付帯する必要があります。私が理想とする臨床薬剤師像は、こういった資質をバランスよく持ち合わせている薬剤師です。この育成が私の理念です。

2) 理念をもつに至った背景

私は、これまで多くの若手薬剤師と共に働き、時に上司や教官として指導してきましたが、残念ながら先に述べたような資質を持ち、薬物療法における医師の右腕として、あるいは他職種を支援できる技術と心をもった薬剤師は、多くはないと感じています。これには、臨床能力が現在の医療の求めるスピードや技術レベルに薬剤師が追いついていない可能性、能力をアピールする発信力が弱い、職業意識のミスマッチ、卒前薬学教育、卒後教育の不足などがあるのではないかという危機感をもっています。私は、前職で薬学部での教育職を兼務しました。初めての教育職では、人を教える楽しさ、育つ喜

びを大いに感じました。そこでの私の経験からは、学生の臨床教員や指導薬剤師に対する期待や敬意は、教壇の上より臨床現場で患者や他医療者に向き合っている姿勢に多いように思いました。また、臨床現場では、慣習や科学的根拠に乏しい医療が行われていたり、機械化が遅れていたりします。臨床薬学は、実学でもあるので、こういった医療現場での問題を抽出し、解決する技術を教える事も重要であると思いました。薬学（のみならず医療者）教育では、学生が学んだ知識を生かす臨床での実習が重要と考えるに至った背景です。

教育の方法・戦略

臨床現場の薬剤師ならではのリアルな教育を行う。取り組みとして、授業の工夫と開発した教材、自己研鑽実績について述べる。

授業の工夫

授業の工夫は、別紙資料を添付する。講義資料を添付する(別紙資料 1)。方針は、次の通りである。

勉強方法を教える

1. 薬剤師国家試験に耐える知識
2. 薬物治療学は、病態・薬理・実務が混在している(関連領域の理解)
3. 症例報告を多角的に考えられる

このためには、次の工夫をおこなっている。

- 講義資料だけでも自己学習できる
→資料と復習に教科書該当ページをリンクさせる。
- 文字列だけにならない資料
→なるべく表→図を盛り込む
- 90分間だけの講義は、学習定着率が悪い
→症例のグループ討議を設ける
- 講義内で国家試験問題を提示
→到達点の理解、成功体験をつける
- 本日の内容チェックリスト
→知識の要点の整理、知識の緩急をつける

開発した教材

学生への注射薬調製手技をリアルに把握させるため、国内企業と抗がん剤調製トレーニングキットを開発した(別紙資料 2)。さらに、聴覚から抗がん剤の調製を体験する陰圧トレーニングキットを開発した(別紙資料 3)。このように、教材開発を行い、学生への教育

効果の向上を目指した実習の実績がある。今後、当学においてもこういった取り組みを進めたい。

授業以外の諸活動

授業以外の社会活動としては、次のようなものがある。学会等は、診療ガイドラインの委員等を努め、医療の質的向上に尽力している。教職員として、大学教育以外の患者会での講演や中高生への医療理解を深める活動をしている。このような経験・実績を湘南医療大学で発揮してゆく。本年 10 月にも湘南医療大学籍にて神奈川での公開講座を予定している。

(学会等委員)

日本臨床腫瘍学会 学術集会部会恒常委員(多職種連携プログラム部会)
日本緩和医療薬学会 第 16 回日本緩和医療薬学会 プログラム委員
日本緩和医療薬学会 優秀論文賞審査委員会 委員長
日本緩和医療学会 学術大会支援メンバーWG WG 員
日本アカデミック・ディテリング研究会 理事 臨床エビデンス部会 部門長
日本臨床腫瘍薬学会 ガイドライン委員会(血管外漏出小委員会)
日本がんサポーターケア学会 新規薬剤小委員会 委員
日本緩和医療薬学会 編集委員会 副委員長
日本緩和医療学会 がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 2019 年版
日本緩和医療薬学会 専門・認定制度委員会
日本緩和医療薬学会 編集委員会
日本がんサポーターケア学会 骨転移と骨の健康部会委員
日本医療薬学会 代議員
日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師認定書類審査員
日本緩和医療薬学会 評議員

(患者会等)

オンライン公開講座 サプリメントの本当のこと?
国際医療福祉大学病院 公開講座 2020 年 9 月

職業に関する学習におけるインタビュー
栃木県立矢板東高校附属中学校 2020 年 8 月

がんの専門薬剤師が教える耳よりな情報、最近の抗がん剤治療のこと、最新の緩和医療のこと代替補完医療のこと・・・etc

岩手医科大学附属病院がん患者・家族サロン、対話カフェ、ミニレクチャー 2017 年 8 月

がんを知る

岩手医科大学主催 高校生がんセミナー 2017 年 2 月

がん治療のお薬について

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン キッズがんセミナー 2016 年

がんの専門薬剤師が教える耳よりな情報～最近の抗がん剤治療のこと・最新の緩和医療のこと・代替補完医療のこと～

スヴェンソン主催 患者講演会 2016 年 7 月

自己研鑽など

自己研鑽は、以下の専門・認定資格を維持するために、学会セミナーの受講等を積極的に行っている。研鑽の結果は、授業等へ積極的に還元している。

(主な認定資格)

日本医療薬学会 がん指導薬剤師

日本医療薬学会 認定薬剤師

日本医療薬学会 がん専門薬剤師

日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師

日本医療薬学会 指導薬剤師

日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師

日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師

日本緩和医療薬学会 緩和医療暫定指導薬剤師

日本アカデミック・ディターリング研究会 認定指導者

2. 学習成果

特徴的な授業は、チーム医療実習である。多職種連携教育の主体的運営を行い、医療系大学として特徴あるカリキュラム(薬学部 6 年生のアドバンス教育としての実践チーム医療論の開講)を運営した。本コースは、臨床実習を終えた薬学部 6 年生のポスト実習に該当し、病棟に 1 週間常駐し、医師らとともにチーム医療を行うものである。選択科目ながら高いモチベーションをもつ学生のアドバンス教育として機能した(添付資料 4)。

3. 改善のための努力

私は、本年 4 月に着任したばかりであり、当学の教育手法に慣れていない。しかし、既存の概念に囚われず、新たな教育手法に関する学会等での研鑽を行い、魅力ある教育を提供してゆきたい。具体的には、これまで参加していなかった日本薬学会などの教育系セミナーがあれば参加したいと考えている。

4. 今後の目標

短期目標(達成時期)

担当する薬物治療学講義の学生への学習効果の向上を目指す。つまり、当該領域における模試等の成績が全国平均以上に到達するよう工夫する(2024 年)。

卒論研究の実施体制を整え、研究を通じた科学的マインドの醸成を行う(2025 年)

長期目標

湘南医療大学薬学部卒業生が神奈川県在地医療を担う薬剤師として活躍することを目標としている。願わくは、病院薬剤師の不足が懸念されているので、その充足率向上に寄与したい。そのために、高年次の多職種連携教育やまず国家試験対策など尽力する。湘南医療大学が全国に類を見ない特色と魅力のある大学になるよう誠心誠意尽力することが目標である。

【添付資料】

別紙資料 1 臨床実践的な薬物治療学の講義へ(医療薬学科 佐藤淳也)

別紙資料 2 実務実習での抗がん剤調製トレーニング -抗がん剤調製トレーニングキットの開発と活用(医療薬学科 佐藤淳也)

別紙資料 3 陰圧トレーナー(医療薬学科 佐藤淳也)

(添付資料 4)薬学部 6 年生のアドバンス教育としての実践チーム医療論の開講と評価 第 134 回日本薬学会 (医療薬学科 佐藤淳也)